

おもい
想いの
未来を
描こう

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・弘前市立中央公民館
弘前大学との地域づくり連携事業

地域未来創生塾 @中央公民館

参加
無料
お申込み不要

日程: **令和4年10月12日(水)**から**令和5年3月9日(木)**の期間の

原則**第2および第4水曜日**(全10回)※第4回・第9回・第10回は曜日が異なります。

時間: **18:30~20:00**

対象: **弘前市および近隣にお住まいの高校生・一般の方**

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために基本的にZoomによるオンライン授業の形式で行います。また、ヒロコ3階多世代交流室2にてパブリックビューイングも実施いたします。



zoom

[ミーティングID] **248 186 4809**

[パスワード] **393198**

QRコードで
参加▷



パブリックビューイング会場: **ヒロコ3階多世代交流室2** 弘前市駅前町9-20 (状況によってはオンラインのみになる可能性もあります)

※全10回のうち6回以上ご参加の方には修了証を授与します。最新情報については、チラシ配布および地域未来創生センターホームページに掲載します。

主催: 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 共催: 弘前市教育委員会(中央公民館) 後援: 弘前市・東奥日報社・陸奥新報社

お問合せ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター ☎0172-39-3198(平日9:15~17:00)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>

「地域未来創生塾@中央公民館」

目的

「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全10回の講座を開催いたします。具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策・地域の防災・減災などを模索するために、地域のみならず弘前大学人文社会科学部の教員が、講義形式で学びを深めます。関心あるテーマのみのご参加も大歓迎です。



年間計画

第1回	令和4年10月12日(水)	幻の2021年弘前城新能 ～能《清経》を読む～	講師：人文社会科学部助教 中野顕正(専門：日本古典文学) 内容：能楽は、日本を代表する伝統芸能の一つです。弘前においても屋外上演(新能)の催しが度々行われていますが、2021・22年に開催が予定されていた公演は、コロナ禍のため残念ながら中止となりました。本講義では、2021年に上演が予定されていた演目のうち《清経》の作品を精読することで、幻の弘前城新能の世界を味わって頂きます。
第2回	令和4年10月26日(水)	ふるさと納税の課題を 財政学から考える	講師：人文社会科学部准教授 金目哲郎(専門：財政学) 内容：最近、ふるさと納税の寄附金額が増加しています。地域経済の活性化のためにふるさと納税を活用する地方自治体が多いなかで、返礼品競争の過熱化など課題も少なくありません。この講義では、財政学の視点からふるさと納税の現状と課題を紹介します。
第3回	令和4年11月9日(水)	企業における情報 システムの活用方法	講師：人文社会科学部助教 商哲(専門：管理会計) 内容：近年、企業における情報システムの重要性がますます重要となる傾向にあり、DX(デジタルトランスフォーメーション)戦略などの戦略を打ち出す企業も増えています。企業における情報システムの活用方法について話します。また、直面する可能性のある課題についても議論します。
第4回	令和4年11月24日(木)	性の多様性のなかで生きる	講師：人文社会科学部助教 高内悠貴(専門：アメリカ史) 内容：弘前市では「一人ひとりが互いを尊重し合い心豊かに暮らせるまち」への一歩として、2020年にパートナーシップ宣誓制度が導入されました。性的少数者を含むすべての人が生きやすい社会を作るため、次の一歩として何が必要でしょうか？アメリカの性的マイノリティの社会運動の歴史を振り返りながら考えたいと思います。
第5回	令和4年12月14日(水)	「ナマコの眼」で地域を みつめる	講師：人文社会科学部助教 松井 歩(専門：社会地理学) 内容：ナマコは青森県でも正月料理の一品としても親しまれている水産物ですが、近年では海外市場の需要により世界中で「ナマコブーム」が発生しています。これらは地域に何をもちたらし、地域ではどのような変化が起こっているのでしょうか。フィールドワークで得られた調査結果をもとに考えてみたいと思います。
第6回	令和5年1月11日(水)	コロナ禍と憲法	講師：人文社会科学部助教 伊藤 健(専門：憲法) 内容：憲法は、国家の活動を制限する法規範といわれます。そのため、憲法問題が身近な問題として現れることは、そう多くありません。しかし、コロナ禍という未曾有の危機において、国家が我々の生活に介入する必要性が生まれました。そこで、コロナ禍で顕在化した、日常生活において生じうる憲法問題について考えます。
第7回	令和5年1月25日(水)	冬の火災を防ぐためにできる ことを考えよう ～地域的な危険性と政策的 な働きかけ～	講師：人文社会科学部准教授 花田真一(専門：実証産業組織論) 内容：冬になると、暖房器具が原因となる住宅火災がどうしても増えてしまいます。少しでも被害を減らすために、私たちにどのようなことができるでしょうか。医学的な視点から損失の大きさを、地理情報的な視点から対策すべき地点を、経済学的な視点から政策的な働きかけの効果を、学際的に考えてみたいと思います。
第8回	令和5年2月8日(水)	損害賠償額から見た人間の 価値 ～障害者の逸失利益 格差問題を考える～	講師：人文社会科学部准教授 吉村顕真(専門：民法) 内容：例えば、障害者が交通事故で死亡した場合、その遺族が加害者に損害賠償を請求する訴えを提起し、最終的に損害賠償が認められたとしても、その賠償金は、健康者と比較して、著しく低額な賠償金となります。本講義では、こうした賠償金格差の問題について、特に障害のある年少者の場合に着目して、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。
第9回	令和5年2月21日(火)	東アフリカの大学受験と 就職活動：ウガンダ共和国 での聞き取り調査のはなし	講師：人文社会科学部准教授 白石社一郎(専門：人類学・社会学) 内容：21世紀に入ってから、アフリカ各国の高等教育がすすんでいます。爆発的に増加する都市部・農村部からの進学者数の一方で、産業化が追いつかず就職難も問題になっています。この夏に調査したウガンダ共和国での現状をお伝えします。
第10回	令和5年3月9日(木)	人口が減少する中で、 社会インフラの更新を どうするか？	講師：人文社会科学部教授 飯島裕胤(専門：金融論) 内容：道路や水道などの社会基盤(インフラ)は、地域社会で不可欠な役割を果たしています。一方で、維持するには補修・更新が必要で、人口が減少すると一人あたりの費用負担が重くなる問題があります。さらに、過去の整備拡大のために、今後大量更新も見込まれています。私たちは、どうしたら良いのでしょうか。経済学の観点から問題を考えます。



お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172-39-3198 (平日9:15~17:00)

E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>